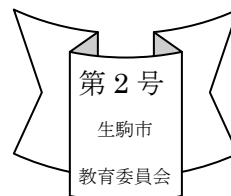




懇話会だより



3月19日 第2回懇話会 テーマは・・・

「生駒北小・北中学校における小中一貫校の設置について検討し、懇話会として一定の方向性を出すための会の進め方や取組内容について」

この日は生駒北小学校の卒業式。その4日前には北中学校でも行われています。参加者の一人は「小学校・中学校とも、きめ細やかな指導が行き届いた式だった。」と。心がこもった素敵な式典だったのですね。地域に根ざした学校であるからこそ、子ども一人一人の成長に関わった人みんなが温かい気持ちで祝うことができるのです。「高山のよさを生かした街づくり・学校づくりを！」という意見が懇話会で多数出ました。高山のよさ、それは「地域が支える学校教育」ではないかと感じました。

さて、懇話会だより第2号は、会議内容のダイジェスト版として発刊します。生駒市ホームページには懇話会会議事録も掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

(小中一貫教育懇話会のページは <http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/15200/03/01.html> です。)



こんな意見が交わされました



1.小中一貫教育についての情報の提供

- ・タウンミーティングや説明会に行けなかった保護者は、小中一貫教育を理解できていない。
- ・打田・高船の保護者の多くは情報が少なく不安を感じている。疑問もたくさんある。
- ・小柳先生から直接話を聞く機会を設けてほしい。
- ・市や教育委員会が小中一貫教育についてもっと説明してほしい。
- ・賛成か反対かを判断するため、もっと情報が必要だ。
- ・小中一貫教育実施校の保護者の声を聞きたい。
- ・月1回の会合で10月に結論を出すのは難しい。
- ・高山地区だけでなく、全市的に情報提供をしてほしい。

2.教職員の負担

- ・2年後、北小学校では教職員定数が校長と教頭と学級担任だけになる。専科教員がいなくなると全授業を学級担任が受け持たなければならず、負担が増えて子どもと接する余裕がなくなる。
- ・学級担任だけになるとトラブル等があったとき、自在に動ける職員がいない。
- ・小中一貫教育という新しい試みにチャレンジすることには価値がある。
- ・小中一貫校設立よりも教職員数を増やすことに市は力を入れてほしい。

懇話会・説明会・タウンミーティング・講演会・小中一貫校の視察などを設け、具体的なスケジュールを組んでいくことが今後の課題ですね。

(座長 小柳先生)



3.小中一貫教育や懇話会への関心の高さ

- ・育友会が行ったアンケートによると、小中学校双方に子どもがいる保護者は関心が高いが、中学校にしか子どもがいない保護者は関心が低いようだ。幼稚園や保育園の保護者を参加者に加えるべきではないか。
- ・小中一貫教育よりも子どもを増やすこと・学力向上・校舎改修の3つが先決ではないか。
- ・保護者は小中一貫教育に期待していないように感じる。
- ・小中一貫教育に反対する立場からの情報もほしい。
- ・市で小中学校保護者に共通のアンケートを実施してほしい。



幼稚園や保育園に通うお子さんの保護者の皆さんも地域の方であり、地域の代表として出席していただいている方が参加者におられます。

私は良い面からも悪い面からも判断材料となる情報を提供する立場にあります。

(座長 小柳先生)

4.街づくりとの関連

- ・高山地区は、小中一貫校の設立よりも子どもを増やすことが課題ではないか。
- ・子どもの数が少ない。このままでいくと、高山地区ではコミュニケーションをとるのが苦手で社会に適應できない子どもが育つのではないか。
- ・人口減少にどう歯止めを掛けるのかが根本的な問題。小中一貫教育は人口増加に直接結びつくものではない。
- ・新しい学校文化を創るには学校と地域と保護者が三位一体となり、汗をかいて取り組むことが必要である。
- ・高山地区の住宅開発など、子どもの人数を増やすというアプローチでの話し合いを小中一貫教育と同時進行で行ってほしい。
- ・魅力ある街づくりの一つに小中一貫校設立がある。
- ・10年後の社会を見据え、どんな子どもを育てるかが大切ではないか。

人口や子どもの数を増やすことは、教育だけの問題ではないですね。

生駒市は地域住民と一緒にあって小中一貫教育を考え、地域住民の要望に応えようとしています。

(座長 小柳先生)



★次回懇話会は4月24日(水)19:00から生駒北小学校多目的室で開催します。
傍聴もできます。